

♪ 2023年度 **poco a poco** ♪

Nr. 12 2023年9月28日(木)

文責:プファイル・辰巳

## ご無沙汰してしまいました

修学旅行引率とその後の体調不良が重なり、音楽の授業が抜けたり、音楽科通信の発行が滞ったりしてしまいました。失礼いたしました。季節の変わり目、朝夕の冷え込みも厳しくなってきました。みなさんも体調管理には十分ご配慮ください。



さて、季節は秋。ドイツでは「Erntedankfest:収穫祭」の時期です。秋祭りや秋のマルクトなどが、あちらこちらの町で催されることでしょう。また、りんごやぶどうの収穫も始まって、「Most:発酵前の果汁」や「Federweisser:発酵途中のワイン」が販売される季節でもありますね。ドイツの秋を楽しんでください。

## 音楽こぼれ話 < 音楽の中で活躍する動物たち ④ ライオン >

中国では「百獣の王」が虎だと言われることもあるそうですが、一般的にはライオンを指すことが多いですね。鬣(たてがみ)を風になびかせながら立つライオンの姿はいかにも強そうで、百獣の王としての風格が備わっているように見えますね。

そんなライオンをテーマにした音楽を探してみましたが、そう多くはないということに気づかされました。まずは日本の歌謡曲。検索しているうちにベリーグッドマンの「ライオン」という曲に行き当たりました。ジャズの曲にそんなのあったかしら、と思いつつ聞いてみたら、これはCMソングに使われた日本の曲でした。そういえば古い流行歌に、さだまさしさんの「風に立つライオン」っていう曲があったなあ、と懐かしく思い出しました。アフリカで医療に従事する日本人医師のお話が歌詞になった曲です。

次にミュージカルといえば、「ライオン・キング」がありますね。北ドイツの港町ハンブルグには「ライオン・キング」上演専用のホールがあります。何年も前に、私もここで

「ライオン・キング」を、大勢のドイツの子どもたちと一緒に鑑賞しました。ホールに行くには、Landungsbrücke(船着き場)からライオン・キングのロゴマークのついたフェリーに乗り、向こう岸に渡ることになります。

チケットを握りしめて、ワクワクしながらこのフェリーに乗ったことを今でも覚えています。ファミリーで楽しめるミュージカルですね。

小鳥や馬などに比べると、クラシック音楽の世界では活躍場面の少ないライオン。唯一ご紹介できるのが、サン・サーンス作曲の「動物の謝肉祭」の中に出てくる「ライオンの行進」です。まさに「百獣の王」に相応しい力強いライオンの歩みを彷彿とさせる曲の出だしです。その後は低音のちょっと不気味で怖そうな音と、高音で軽やかなフレーズとが交互に出てきます。ピアノソロで演奏される場合もあれば、オーケストラで演奏されるヴァージョンもあります。

私がいらないだけで、もしかしたらもっと他にも「ライオンのクラシック音楽」が有るかも知れません。ご存知の方、ぜひ教えてください。



## ちょっとだけ 演奏会情報

11月14日(火) アルテオーパー・大ホールにて  
20時から ロンドン・フィルハーモニック・オーケストラの演奏  
ブラームス ピアノ協奏曲 第1番  
ブラームス 交響曲第1番

カタリーネン教会(ハウプトヴァッヘ)のコンサートから  
10月15日(土) 18時から 2台のパイプオルガンのためのコンサート  
ヘンデル、ラヴェル、サン・サーンスなどの作品

11月19日(日) 18時から オーケストラと合唱のコンサート  
モーツァルト作曲 「レクイエム」  
パーセルの作品 ほか

※カタリーネン教会では毎週月曜日と木曜日の16時30分から30分間オルガンコンサートがあります。